

戦評

大会名 平成22年度第46回東北高等学校バレーボール選手権大会兼NHK杯大会

日時 平成22年 6月25日～27日

会場 八戸市体育館

男子決勝（6月27日）

相馬高等学校 1 $\left\{ \begin{array}{l} 26 - 24 \\ 15 - 25 \\ 17 - 25 \end{array} \right\}$ 2 雄物川高等学校

ファーストレフリー 安部 昭（宮城県）

セカンドレフリー 晴山 雅紀（青森県）

2年連続決勝進出を果たし、初優勝を目指す相馬高校と、2年ぶり5回目の栄冠を狙う候補筆頭の『春高ベスト4』雄物川高校との対戦は、第1セット序盤雄物川主将細川のレフトからの強打でリードをとる。その後雄物川の高いブロックに、相馬が強打レシーブからの多彩な攻撃と1年サウスポー後藤のバックアタック等で逆転する。しかし、一進一退の攻防を終盤まで繰り返し24 - 24。最後は相馬後藤がライトからクロススパイクを決め、このセットを奪う。第2セット序盤、3連続ブロック等で、雄物川が7 - 3とリード、相馬は主将・セッター堀川が変幻自在の攻撃を組み立て8 - 10追い上げるが、雄物川のブロックが機能し逆に引き離し、18 - 11。藤原の連続Aクイックが決まり、雄物川がそのまま25 - 15と振り切る。第3セット、雄物川・細川、小林のレフトからの強打で8 - 4とリードをとり、13 - 7でチェンジコート。相馬のもう一人の1年生保坂の活躍で追い上げるが、差はつまずかず雄物川17 - 11とリードを保つ。『昨年度インターハイ・ベスト8』の意地を見せたい相馬だったが、高さの雄物川にスパイクが決まらず、25 - 17で敗れ去った。両チームの沖縄・宮古島インターハイでの活躍を期待したい。

戦評者 小林 秀樹（青森県）

戦評

大会名 平成22年度第46回東北高等学校バレーボール選手権大会兼NHK杯大会

日時 平成22年 6月25日～27日

会場 八戸市体育館

女子決勝（6月27日）

山形市立商業高等学校 0 $\left\{ \begin{array}{l} 16 - 25 \\ 21 - 25 \end{array} \right\}$ 2 古川学園高等学校

ファーストレフリー 岡村尚文（青森県）

セカンドレフリー 紺野美穂（岩手県）

準決勝で前回優勝米沢中央高と接戦の末決勝に進み、初優勝を目指す山形市立商高と2年ぶり19回目の優勝を目指す古川学園高との戦いとなった女子決勝戦。第1セットは序盤山市商工藤、古川学園高橋の打ち合いとなるも、古川学園大野果奈の連続ブロックもあり、古川学園が徐々に点差を広げた。中盤山市商山上のスパイク、懸命なレシーブなどでチームを盛上げるも、高さに優る古川学園が大野果奈のブロックで加点し第1セットを先取した。

第2セットに入ると、中盤まで山市商山上、会田、佐藤さくらのスパイクでリードする展開となったが、古川学園リベロ齋田好レシーブから高橋のスパイク芦野のブロックにより20対19とリードする。終盤山市商の懸命なプレーで食い下がるも最後に古川学園山田のサービスエースが決まり、古川学園が山市商を25対21で2セット目も勝ち、2年ぶり19度目の優勝を決めた。

戦評者 甲田信二（青森県）